

我ら 50 期 ここにあり

時代の波に乗るということ

高度経済成長の時代は頭で考えて論理的に考えて理屈っぽいのでよかったです。その時代は大企業時代と言われていて、大きな会社・大きな組織に入っていればみんな良くなる、全員が良くなるという時代でした。なぜなら人口が増えまくりお金が回りまくりだったので、みんながどこに投資しようかと考えていたので、大きな組織に入ってみんなと一緒に行動をしていればうまくいっていたんです。今はどうなっていますか？人口は1年間で100万人ずつ減っているんです。鶴見区は1ヶ月で無くなります。1年で広島市がなくなり、2年半で京都市が無くなる感じそれぐらいのペースで人口が減っているので、みんなと同じことをやっていると幸せになりにくいという時代になってきています。だからこそ大きな組織に入って論理だけを通していのでは上手く行きにくくなっています。今は1人1人が個人経営となり自分の心が求めているものは何か自分でわかるようになって、それをつかんで自分を幸せにしていけるようにしていけるようにならないといけないんです。

ライスワークとライフワーク

「ご飯を食べるためにする仕事」「自分がやりたいことをして」

貢献の仕方が見えにくい仕事もたくさんある

どんな仕事も誰かの役に立っている、社会に貢献していると言っていますが、「どう役に立っているか」は、それぞれの仕事で異なります。病気になった場合、私たちは病院へ行き、医師に診察をしてもらったり薬剤師に薬を処方してもらったりします。医師や薬剤師の仕事は、病気を治す役に立っているといえます。テレビで見る芸能人の仕事はどうでしょうか？彼らはヒトを笑顔にするような話をしたり、心をドキドキさせるようなお芝居をしたりします。そういうものに触れるとき、私たちは日々の悩みを忘れてリラックスできます。彼らの仕事は、人を喜ばせたり感動させたりする役に立っているといえるでしょう。これらの例は社会への貢献の仕方がわかりやすい仕事ですが、一方で、どう役に立っているかわかりにくい仕事もあります。一般的な会社員の仕事がそうでしょう。コンピューターに向かっていたり、会議や打ち合わせをしていたりと、その仕事がなんの役に立っているのか、一見しただけではわかりません。そういう場合は、会社を1つのチームとして考えてみるとわかりやすくなります。たとえばゲームを作る会社の場合、会社の中には、ゲームを企画・考案する人、考案した通りに動くようにプログラミングする人、みんなにゲームを知らせるための宣伝を担当する人、いろいろな役割の人がいて、チームで仕事を成し遂げます。その結果、「ゲームを作り、提供し、遊ぶ人を楽しませる」という形で、世の中の役に立つのです。会社員は会社というチームの中の1つのパートを担当している場合が多いので、直接的には社会への役立ち方、貢献の仕方が見えにくいですが、誰もが欠かすことのできない役割を担っています。

貢献の仕方が見えにくい仕事もたくさんある

どんな仕事も誰かの役に立っている、社会に貢献していると言っていますが、「どう役に立っているか」は、それぞれの仕事で異なります。病気になった場合、私たちは病院へ行き、医師に診察をしてもらったり薬剤師に薬を処方してもらったりします。医師や薬剤師の仕事は、